

東燃ゼネラル石油株式会社

2008年12月期 中間決算説明会

2008年8月18日
東証アローズ



見通しに関する注意事項

この資料に記載されている当社および当社グループ各社の現在の計画、見通しに関する事項は、日本および世界経済の動向、原油価格、円ドルの為替レート、需給の変動に大きく左右される業界の競争状況などにより影響を受けます。これらの影響により、実際の業績は本資料で記載した見通しとは大きく異なる可能性があることにご留意ください。

■ 事業概況

鈴木 一夫

■ 2008年12月期中間決算および
通期業績予想の修正

W. J. ボガティ

■ 質疑応答

事業概況

鈴木 一夫

東燃ゼネラル石油(株)

代表取締役 社長

エクソンモービル(有)

取締役

業界環境の動向

■ 国内燃料油需要の減少

- » 国内の燃料油需要は、省エネルギー、燃料転換、少子高齢化、環境保護の高まり、産業構造の変化などの要因によって減少

■ 原油価格の上昇と精製・販売マージンの減少

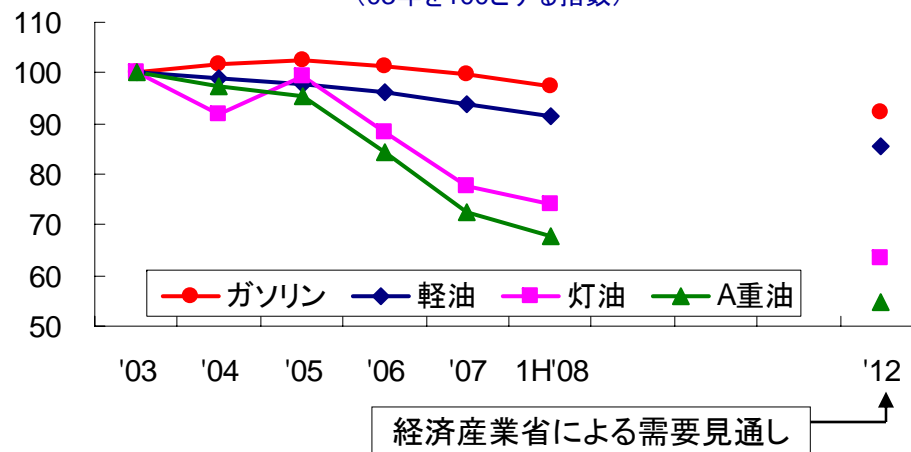
- » 特に4-6月期を中心として原油価格が大幅に上昇
- » 原油価格上昇が石油製品価格に十分転嫁されず、石油製品マージンは大幅に下落
- » 日本の石油各社は製品輸出を拡大
(石油連盟、経済産業省データによる)

■ 石油化学製品市況は引き続き底堅いが軟化傾向

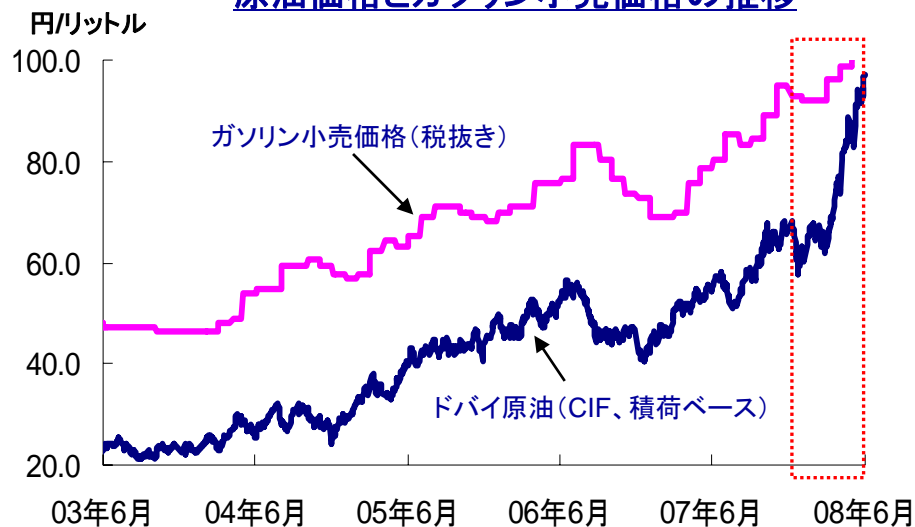
- » 芳香族事業でマージン減少

日本国内の主要石油製品需要動向

(03年を100とする指数)



原油価格とガソリン小売価格の推移



[出典] 経済産業省、プラッツ、石油情報センター他の情報をもとに当社にて作成

当社の長期ビジョンおよび経営基本方針

長期ビジョン:

日本の石油業界の中で「卓越した地位」を築く

経営基本方針:

■ 完璧な操業の継続

» 操業において

- 安全: “Nobody gets hurt”
「誰も怪我をしない、させない」
- 環境保全: “Protect Tomorrow, Today.”
「明日の環境は、今日守る」

» 業務遂行において

- 効果的な内部統制
- コーポレートガバナンスと企業倫理

■ 効率性と企業業績の向上

- » 各事業部門の強みを活かしつつ、これらを有機的に連携させ、全社的な効率性と収益性を追求
- » 資産の効率的活用

■ 株主価値の増大

- » 長期的視点に立ち、株主価値を増大させる
 - 事業への投資と、株主への利益還元(配当、自己株式取得)の最適化



エクソンモービルの
世界的なネットワークの活用

- ✓ 経営管理システム
- ✓ ベスト・プラクティス
- ✓ 供給体制

完璧な操業の継続

■ 安全

- » すべての業務遂行項目に優先する最重要課題
- » “Nobody Gets Hurt”
「誰もケガをしない、ケガをさせない」というビジョンの達成
- » 2004年以来、従業員の休業災害発生ゼロ

■ 環境保全に対する真摯な取り組み

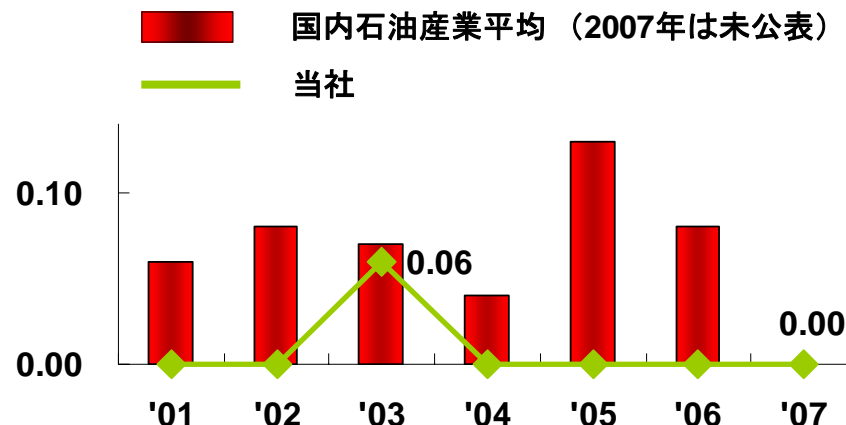
- » “Protect Tomorrow. Today.”
「明日の環境は、今日守る」
- » 環境保全のための行動計画の遂行
 - エネルギー消費効率の向上
 - 業界目標はすでに達成済み
 - 揮発性有機化合物の削減

■ コーポレートガバナンス、企業倫理

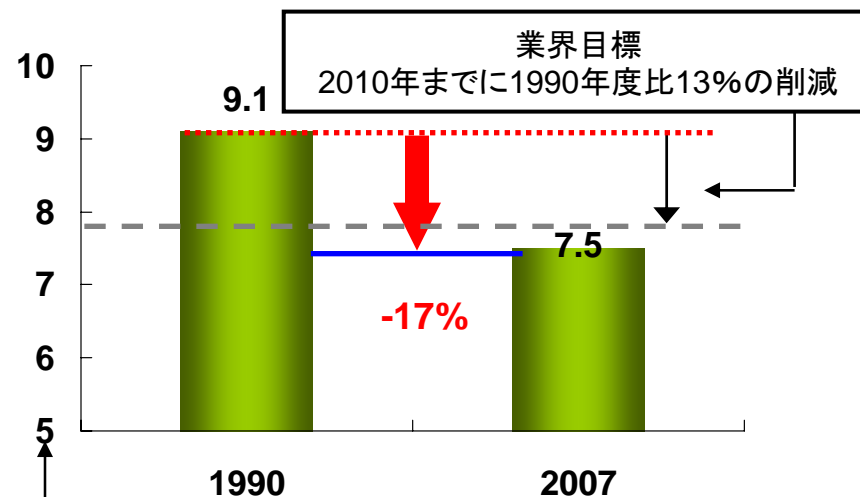
- » 事業を進める上での重要な基盤
- » 周知徹底のための定期的な社内訓練

従業員休業災害発生率(20万時間あたりの件数)

(石油精製・供給部門)



当社製油所におけるエネルギー消費原単位



原油換算エネルギー使用量(KL) / 常圧蒸留装置換算通油量(千KL)

効率性と企業業績の向上

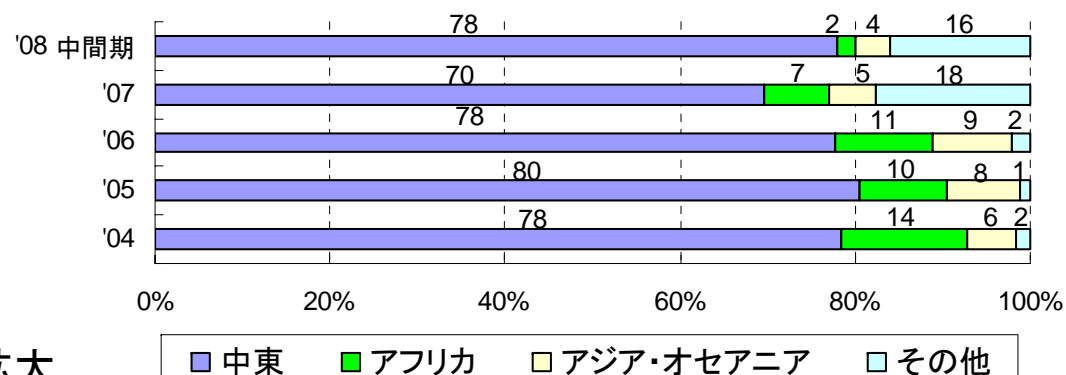
エクソンモービルの世界的ネットワークの活用と全社的な収益性の向上

- 原油および原材料の多様化
 - » 新規原油の積極的な精製
 - » 原材料の最適な組み合わせの追求
- 製品輸出のさらなる拡大
 - » 当社はガソリンと中間留分の輸出を拡大
 - 出荷設備の増強
 - エクソンモービルの世界的供給ネットワークを活用

資産の効率的活用: 投資

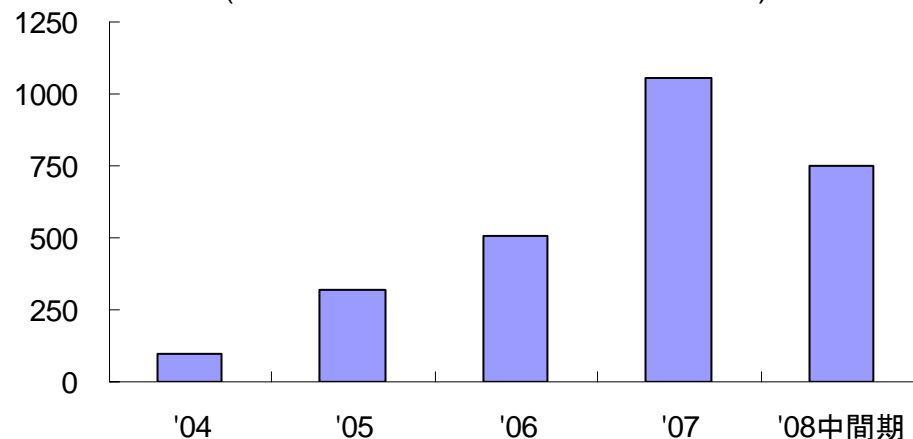
- バッテリーセパレーター事業の成長性追求
 - » リチウムイオン電池向けセパレーターフィルム: 期待される需要の大幅な拡大
 - » 韓国での新工場建設に合意

地域別原油輸入



製品輸出

(ガソリン、中間留分、'04年を100とする)



株主価値の増大

■ 基本原則

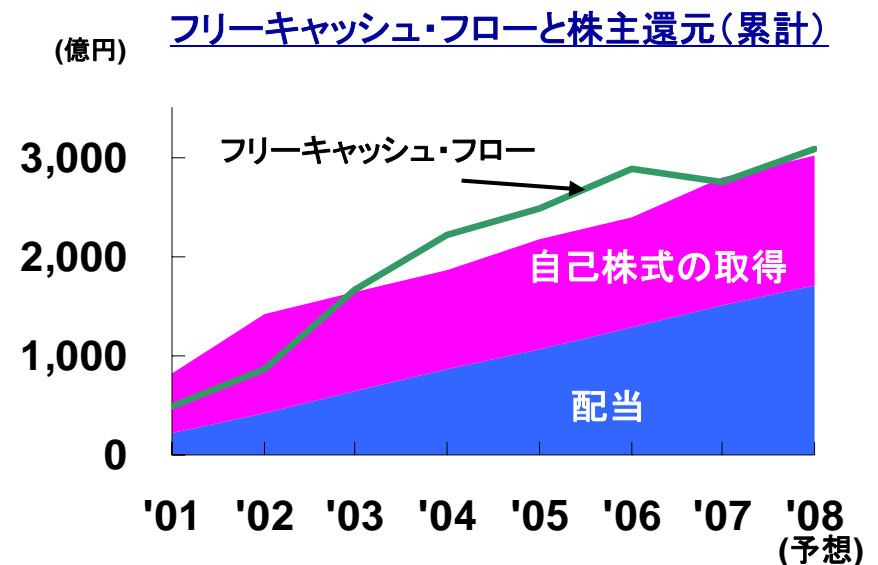
- » 事業に当面不必要な資金は株主に還元
- » 投資による長期的な株主価値増大と、株主還元の最適なバランスを追求

■ 安定的な配当

- » 2000年の合併以来、配当支払総額(年間約220億円)を維持しつつ、一株当たり配当金は増額
- » 4%近い配当利回りは、東証上場企業の中でトップ水準

■ 自己株式の取得、消却

- » 2001年以来、総額で1,300億円の自己株式の取得と消却を行い、発行株式数は約20%減少
- » 自己株式の取得と消却を通じ、経営環境の変化のために短期的に収支が変動する中、一株当たり配当の安定的な成長を実現
- » 長期的な株主利益の追求



2008年12月期中間決算 および 通期業績予想の修正

W. J. ボガティ

東燃ゼネラル石油(株)
代表取締役 常務取締役

エクソンモービル(有)
代表取締役 副社長

決算ハイライト

■ 2008年中間期の営業利益は前年同期比で大きく減少

» 石油部門における当社グロス-margin(在庫要因を除く)の低下

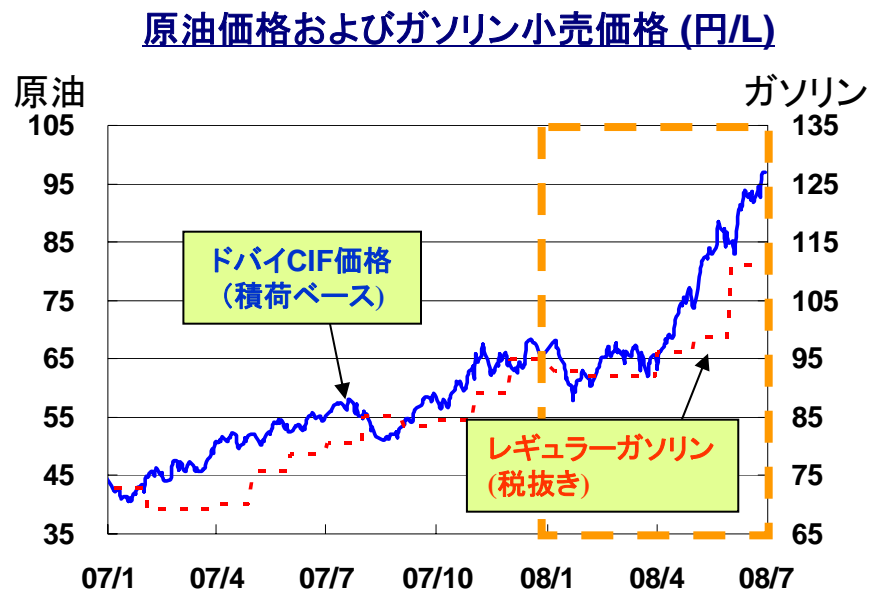
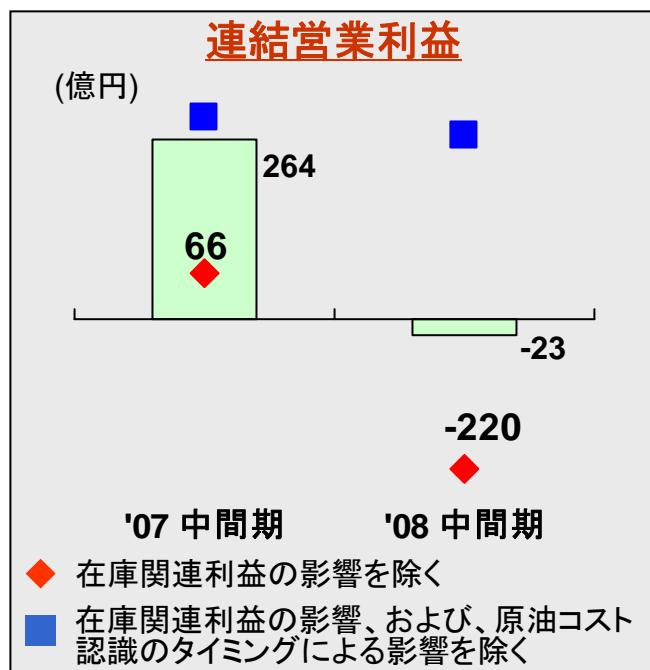
- 業界他社より約1ヶ月早く原油価格を認識することによるマイナスの影響が前年同期よりも大幅に拡大
- 南西石油(株)の売却に伴う同社の在庫含み益の実現
- これらの一時的要因、特殊要因を除いた石油部門利益は前年同期より若干の改善

» 石油化学部門は引き続き連結利益に貢献

- 芳香族類の当社marginは前年より減少

» 後入先出法に伴う評価益を含めた在庫関連の利益は全体で前年同期とほぼ同レベル

■ 配当の見通しは変更せず (2008年通期 一株あたり38円)



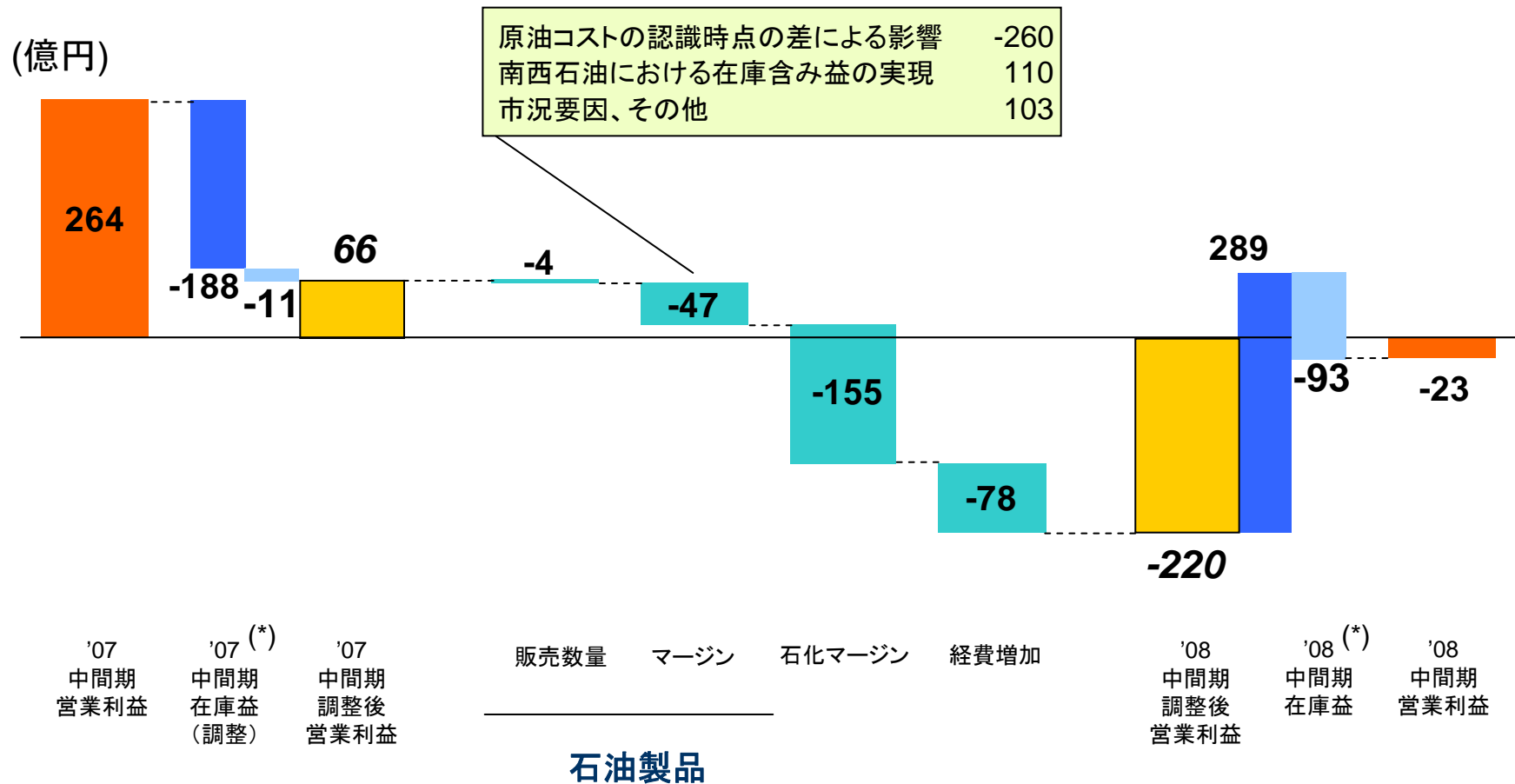
出典: プラッツ、石油情報センター等

損益計算書 [中間期、連結]

(億円)	'07 1-6月期	'08 1-6月期	増減
売上高	14,054	16,926	2,872
営業損益	264	-23	-288
経常利益	284	38	-246
特別損益	-6	56	62
中間純利益	171	59	-112
在庫関連利益の調整	-199	-196	2
調整後営業損益	66	-220	-285
石油部門 他	-277	-399	-121
石油化学部門	343	179	-164
<参考>石油部門に含まれる原油コストの 認識時点の違いによる影響	-230	-490	

営業利益の要因分析

['08年中間期連結業績、前年同期比較]



(*) 在庫益は、後入先出法に基づく在庫評価益、並びに、一時的な在庫数量変動に因るその他影響額を含む

在庫評価益
 その他要因

販売数量/稼働率

- 業界全体の需要動向を反映して主要燃料油の国内販売数量が前年同期比で減少
- 採算性の高い輸出拡大を継続
 - » ガソリンと中間留分(ジェット燃料、軽油、A重油)の輸出は前年同期の約2倍
- 前年の和歌山工場でのプラント定期修理に伴う減少の反動により、芳香族製品の販売が大幅に増加

石油製品*		'07年中間期	'08年中間期	増減	業界増減
(千KL)					
日本国内での販売	ガソリン	5,415	4,969	-8.2%	-2.1%
	灯油	1,915	1,670	-12.8%	-4.3%
	軽油	1,804	1,527	-15.3%	-2.6%
	A重油	1,656	1,315	-20.6%	-6.3%
	C重油	1,084	901	-16.9%	23.2%
	主要5油種合計	11,873	10,381	-12.6%	0.2%
	LPGその他	1,305	1,365	+4.5%	
	小計	13,179	11,745	-10.9%	
	輸出**	1,494	2,343	+56.9%	
	その他***	2,645	2,379	-10.1%	
石油製品合計	17,317	16,467	-4.9%		
注記: *: 連結ベース、パーターを除く **: 保税販売を除く ***: 潤滑油、原油、国内のエクソンモービルグループ内の転送取引などを含む					
石油化学製品 (連結ベース)					
(千トン)					
	オレフィン類他 (東燃化学分)	956	927	-3.0%	
	芳香族類他 (東燃ゼネラル石油分)	352	432	22.7%	
	石油化学製品合計	1,309	1,360	3.9%	

設備稼働率(常圧蒸留装置ベース、単体)

75%

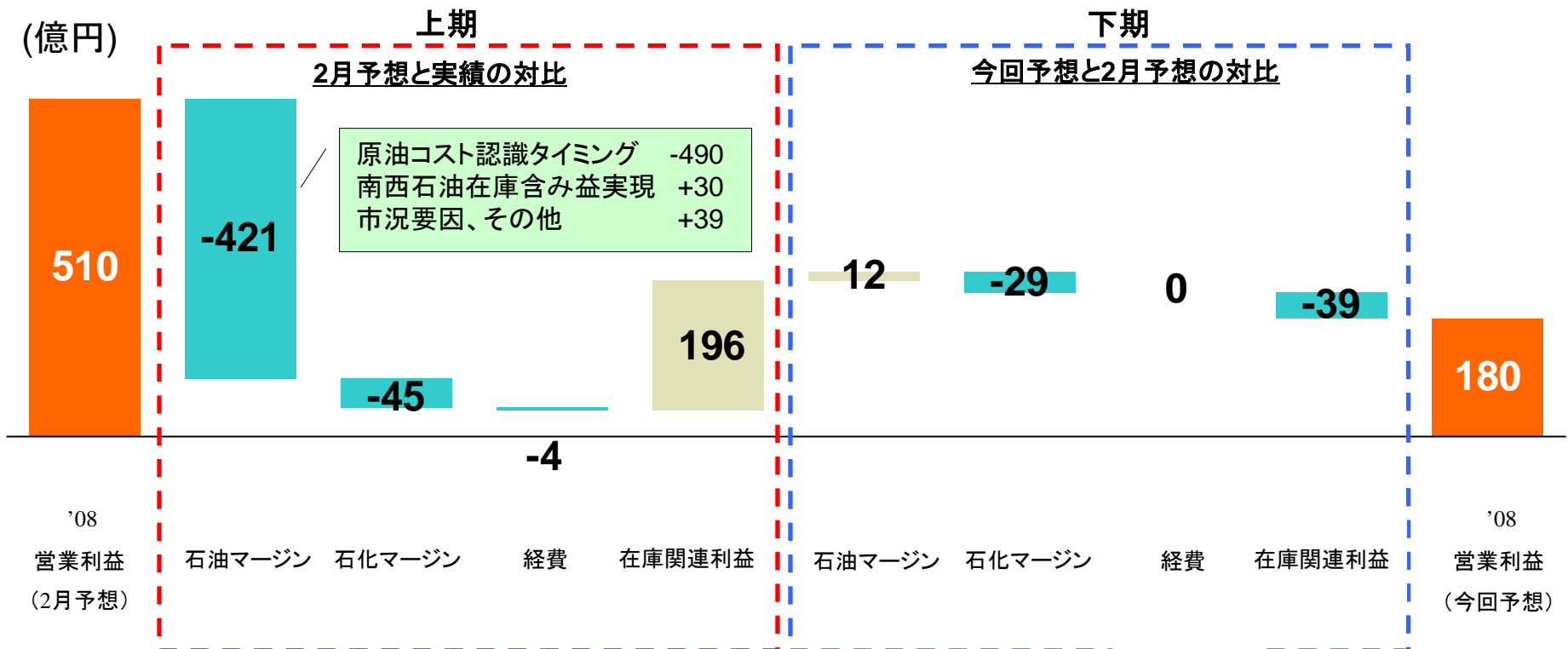
72%

83%

2008年通期予想営業利益 [連結]

['08年修正予想、前回(2月)予想比]

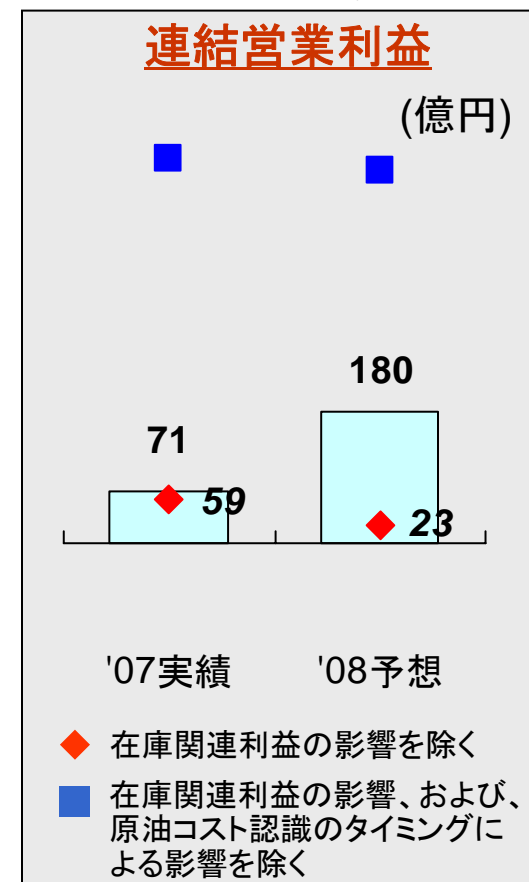
- 2008年通期の営業利益は2月に公表した前回予想と比べて330億円減少
- 変更の主な理由は、業界他社より約1ヶ月早く原油価格を認識することによるマイナスの影響のために、上期の当社石油製品マージンが予想よりも低かったことによる
- 下期の石油化学製品マージンを若干低めに修正
- 下期の経費予想に変更なし
- 上期に発生した在庫利益のうち39億円が下期に振戻り(下期マイナス要因)



業績予想の修正 [連結]

- 2008年通期の調整後営業利益は23億円と予想
- 年末までに大きな原油価格の変動がない前提で期末の在庫水準を予想し、2008年通期で157億円の在庫関連利益を見込む
- 原油コスト認識タイミングの違いにより上半期に生じた490億円のマイナス要因は年末まで変わらず

(億円)	'07実績	'08 予想	上期実績	下期予想
売上高	30,498	39,000	16,926	22,074 ^(*)
営業損益	71	180	-23	203
経常利益	151	250	38	212
特別損益	-40	60	56	4
当期純利益	70	190	59	131
在庫関連利益の調整	-12	-157	-196	39
調整後営業利益	59	23	-220	243
石油部門 他	-497	-357	-399	42
石油化学部門	557	380	179	201



(*) 136.3ドル/バレル (ドバイ),
106.4 円/ドル
<'08年6月末の値>

キャッシュ・フロー、借入、資本 [連結]

(億円)

営業活動 / 投資活動

税引前中間純利益	94
設備投資額/減価償却費/資産棄却	110
たな卸資産	149
売掛金/買掛金/未払揮発油税等	224
法人税等の支払	-36
その他	17

財務活動

配当金の支払額	-107
ネット借入金を増(減)	-450

現預金の増減

'08年上期 *

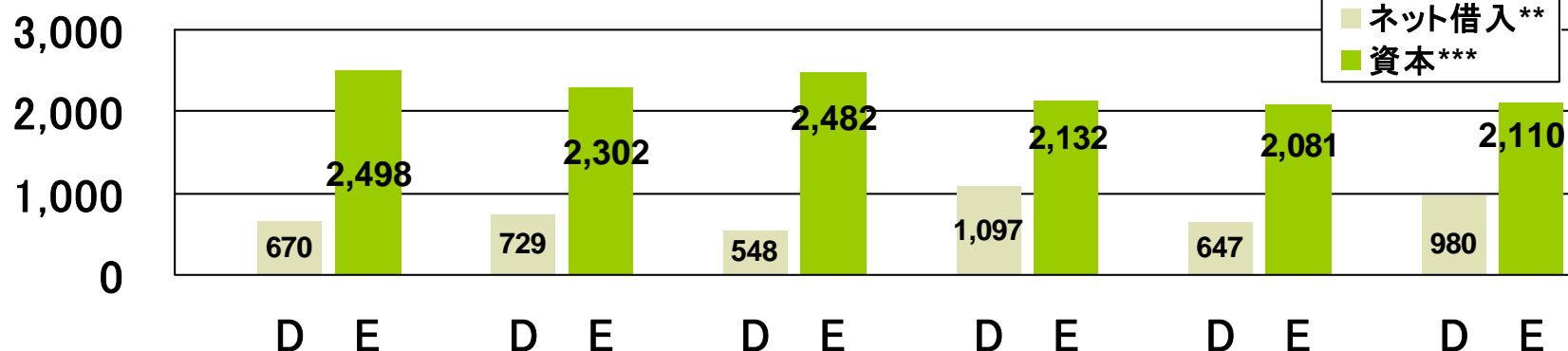
558

-557

0

- 健全な財務状態を維持
- 558 億円のフリーキャッシュ・フロー
- 6月末のネットD/Eレシオは 31%

(億円) '04/12末 '05/12末 '06/12末 '07/12末 '08/6末 '08/12末(予想)



ネットD/Eレシオ : 0.27 0.32 0.22 0.51 0.31 0.47

* 南西石油の株式売却に伴うバランスシート調整前のキャッシュ・フローを表す。この調整によるキャッシュ・フロー総額への影響はなし

** 現預金・貸付金等の影響を除いた借入金

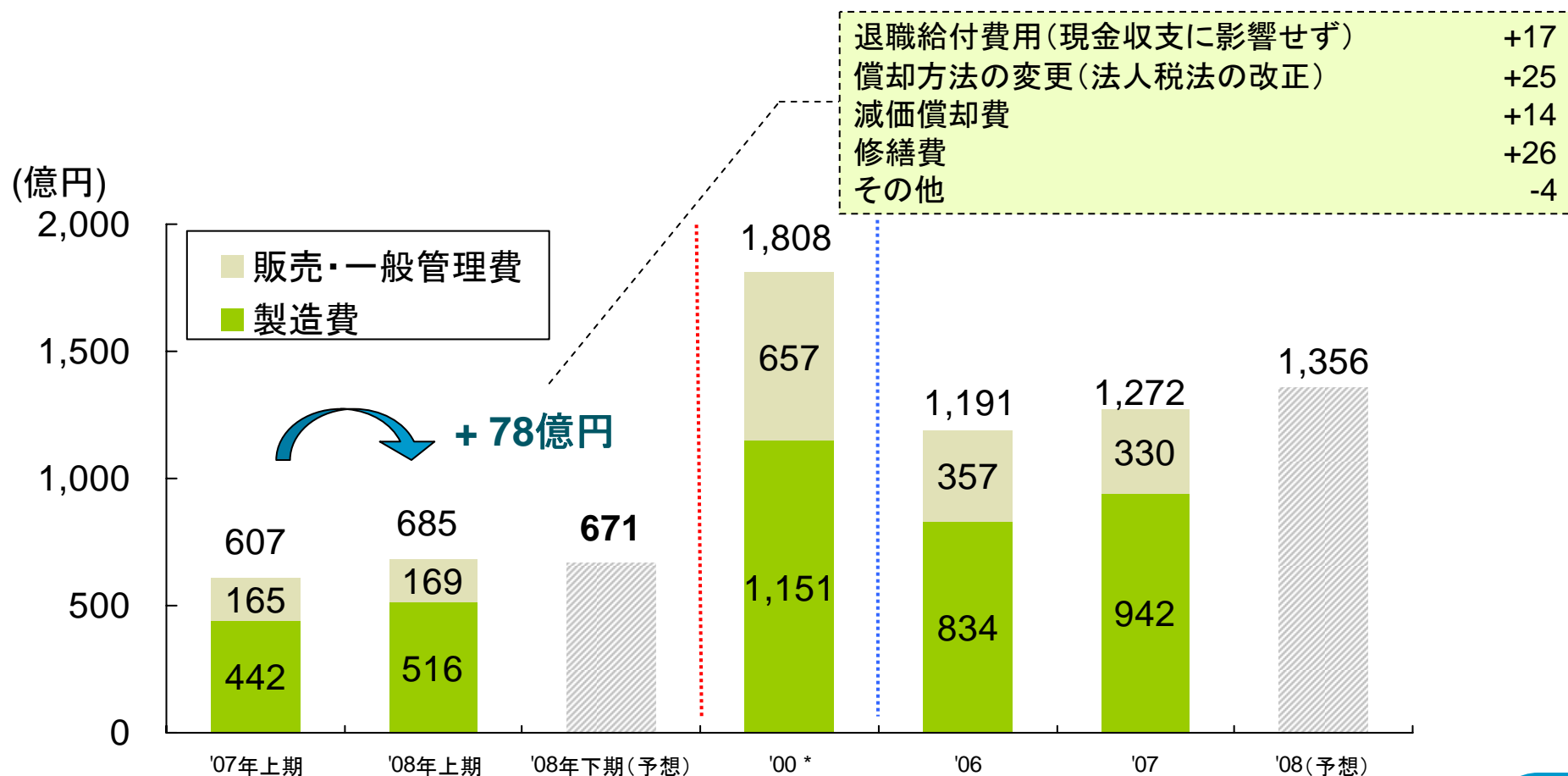
*** 少数株主持分を除く純資産

補足資料

2008年8月18日

経費 [連結]

- 新規取得設備、並びに、法人税法改正に伴う会計処理方法の変更による減価償却費の増加
- 資材費を含む建設関連コストの上昇による修繕費の増加



*旧東燃と旧ゼネラル石油の合算(未監査)